

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成29年度)

施設 の 名 称	宮城県障害者福祉センター
指 定 管 理 者 の 名 称	社会福祉法人 宮城県身体障害者福祉協会
施 設 所 管 部 課 (室)	保健福祉部障害福祉課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成18年4月 ~ 平成21年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会	
平成21年4月 ~ 平成26年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会	
平成26年4月 ~ 平成31年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	社会福祉法人 宮城県身体障害者福祉協会
	所在地	仙台市宮城野区幸町4丁目6-2
指 定 期 間	平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日 (5 か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県障害者福祉センター	
所 在 地	仙台市宮城野区幸町4丁目6-2	
設 置 年 月	昭和58年4月	
根 拠 条 例 等	障害者福祉センター条例	
設 置 目 的	障害者に関する各種の相談に応じ、障害者に対し必要な便宜を供与するとともに、障害者の福祉に関する研修、ボランティア養成等を行い、障害者の総合的な福祉の増進を図るため。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	23,102,57㎡
	構 造	鉄筋コンクリート造3階建
内 容	事務室、ロビー、展示、相談室、図書閲覧室、機械室、管理人室、湯沸室、トイレ(男女、多目的)、日常生活訓練室、宿泊室、談話室、食堂、配膳室、浴室、リネン室、社会適応訓練室、介助技術訓練室、会議室(小中大)、倉庫など	
開 館 (所) 日	日~土曜(火曜、祝日、年末年始除く)	
開 館 (所) 時 間	午前 9時 ~ 午後 9時	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの設置目的に即した業務(施設の提供、相談及び研修など) ・施設全体の管理運営業務(運営推進委員会、利用者懇談会) ・施設の使用許可申請の受付及び許可業務 ・機械設備の操作・日常点検業務 ・施設全体の維持管理業務(清掃及び保守点検等) ・施設の亡失等の届出受理及び報告業務 	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
開館(所)日数	296 日	296 日	296 日	100.0%	100.0%
館内利用者数	33,365 人	33,349 人	35,228 人	105.6%	105.6%
館外実施事業参加者数	1,885 人	1,878 人	1,106 人	58.7%	58.9%
延べ利用者数	35,250 人	35,227 人	36,334 人	103.1%	103.1%

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)	
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)			
相談事業	150 人	146 人	183 人	122.0%	125.3%	
研修事業	270 人	267 人	377 人	139.6%	141.2%	
日常生活支援事業	690 人	690 人	602 人	87.2%	87.2%	
スポーツ・レク・芸術文化・交流事業	1,600 人	1,595 人	2,395 人	149.7%	150.2%	
広報・啓発事業	85 人	84 人	103 人	121.2%	122.6%	
自主事業	250 人	250 人	189 人	75.6%	75.6%	
その他、施設の利用者	30,320 人	30,317 人	31,379 人	103.5%	103.5%	
館外 実 施	研修事業	85 人	83 人	8 人	9.4%	9.6%
	スポ・レクおよび交流事業	125 人	121 人	101 人	80.8%	83.5%
	広報・啓発事業	1,355 人	1,354 人	571 人	42.1%	42.2%
	自主事業	320 人	320 人	426 人	133.1%	133.1%
合 計	35,250 人	35,227 人	36,334 人	103.1%	103.1%	

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
県指定管理料	46,963	46,963	46,963	100.0%	100.0%
利用料金収入	539	371	342	63.5%	92.2%
その他	253	271	194	76.7%	71.6%
収入計 (a)	47,755	47,605	47,499	99.5%	99.8%

(2) 支出

人件費	30,472	31,961	30,291	99.4%	94.8%
施設管理費	8,636	7,580	8,628	99.9%	113.8%
事業運営費	7,940	7,192	7,191	90.6%	100.0%
その他	707	198	560	79.2%	282.8%
支出計 (b)	47,755	46,931	46,670	97.7%	99.4%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	674	829	0.0%	123.0%
前期繰越収支差額				0.0%	0.0%
次期繰越収支差額				0.0%	0.0%

自主事業収支実績

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
自主財源	154	154	154	100.0%	100.0%
寄附金	0	0	0	0.0%	0.0%
収入計 (a)	154	154	154	100.0%	100.0%

(2) 支出

事業費	154	153	154	100.0%	100.7%
支出計 (b)	154	153	154	100.0%	100.7%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	1	0	0.0%	0.0%
前期繰越収支差額				0.0%	0.0%
次期繰越収支差額				0.0%	0.0%

6. 評価対象年度(平成29年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	・職員研修については、福祉研修等の外部研修に各職員を派遣しました。また、毎朝、打合せ時に手話研修を取り入れ、窓口での手話対応ができるように学習を重ねました。・利用者の安全確保を重視し、救急講習を受講いたしました。		・職員間の連携・協力により、事業の実施、各教室への派遣及び貸し館業務を滞りなく実施しました。・事業関連の講座や職員の資質向上をめざすテーマの研修に参加し、日々の業務に反映させました。		A	・職員研修を積極的に行うことで、職員の資質向上、利用者の利便性向上に努めている。	A
人員体制	正規	6人	非正規	1人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	・昭和58年の開所であり、施設・設備等随所に老朽化が見られるので、設備保守管理業者並びに器具類取り扱い業者と緊密に連絡を取り保守点検、修理等を実施しました。(業務実績)・各保守点検等・音響設備・給水管修繕、点字ブロック取替等		・節水、節電を心がけ、照明器具等や蛇口の日常点検や除雪などは職員で実施しました。・廊下等の床面の雨雪による水滴・汚れで転倒事故が起こらないよう、点検・清掃に配慮しました。		A	・施設の老朽化が懸念される中、予算の範囲内で、施設・設備の維持管理を適切に行っている。・利用者の安全確保等に配慮した施設管理に努めている。	A
③運營業務(ソフト事業等)の実施	業務仕様書に基づき業務を実施しました。①相談事業②研修事業③日常生活支援事業④スポーツ・レクリエーション・芸術文化・交流事業⑤広報・啓発事業⑥施設の便宜提供のサービスの向上に係る取り組み⑦環境配慮の取り組み		実績については別添「事業報告書」にて報告。職員は各事業のよりよい運営はもちろんのこと、各参加者とのコミュニケーションを豊かにすることで、ニーズの把握や安心と信頼を深める努力を重ねました。・スポーツ・レクリエーション・芸術文化・交流事業「センターまつり」では過去最高の来場者を迎えました。・事務所内や窓口での対応は和やかな明るい雰囲気心がけました。		A	・事業計画に基づいて適切に事業が実施されている。中でもスポーツ・レクリエーション・芸術文化・交流事業では、過去最高の来場者数を記録するなど、地域連携や施設のPRなど、これまで地道に活動してきた成果が実ったものと思われる。	A
④自主事業の実施	(1)出前「趣味の教室」 (2)ライブメッセージ2018!		・障害者団体・施設や支援学校の宿泊時における出前プログラムが前年度より増加し、好評でした。・障害を持つ方々がいきいきと主張や活動を発表する機会に共感の声がありました。		S	・施設利用者のニーズに柔軟に対応しており、障害者の活躍の場を提供するなど、障害者のやる気、新しいことへのチャレンジ精神を養っている。・出前講座により、訪問先地域で得られた課題など、今後の事業に生かしていただきたい。	S
⑤利用者サービスの向上	・運営推進委員会の開催(年2回)・利用者懇談会の開催(年1回)・隣接施設との協力体制の強化・ホームページの管理・要望への迅速な対応・物品の無料貸し出し・ロビーの開放・展示場所の提供・部屋の貸し出しの前の点検・テーブル拭きの実践・定期利用団体への貸出ロッカーの提供・毎朝の消毒による感染予防・全職員が手話学習に取り組み、窓口対応に必要な手話を身につけました。		・各会議で寄せられた施設へのご意見・ご要望には迅速な対応・改善に努め、運営に反映させました。・隣接の障害者総合体育センターや温水プールと連絡会を設け、情報の共有やサービスの向上を視野に連携を深め、各事業運営に反映させました。・利用者が快適に施設を利用できるように左記項目について便宜を図りました。・各職員の手話での窓口対応がスムーズになってきました。		S	・施設利用者からの要望に、こまめに対応し、日常会話を楽しむなど、利用者が職員に気軽に声がけできる親しみやすい雰囲気作りがなされていた。・取り組み内容が昨年度と同様であり工夫が見られなかった。ホームページのリニューアルや、施設のメールアドレスを設けるなど、今後取組んでいただきたい。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	・ご意見ポスト「ケヤッキーあのお」の設置0件・口頭・電話による要望受付5件(解決5件)・苦情受付の窓口設置0件		できる限り、迅速な対応・解決・改善を心がけ、対応いたしました。予算や大規模な修繕にかかる案件に関しては、その調整にお時間をいただくことを承諾していただいております。		A	・苦情、要望等については、適切に対応していただいております。予算の範囲で適切に行われています。	A
⑦安全対策	・駐車場不足に伴う交通整理・利用者の誘導の徹底・点字ブロック上の安全確保(車両移動)・地震等災害発生時、館内放送・電光掲示板での情報提供。・消防避難訓練の実施2回(資料9)・消防設備点検・施設内外設備点検・災害用非常食・救急用品の備蓄・防災対策、交通安全の注意喚起・研修・福祉避難所の設置及び管理運営に係る協定締結		・当センター利用者が安心してご利用いただけるよう、安全面での確保を図りました。・地震の時には迅速な情報の提供、避難誘導・安全な環境の確保を心がけ実践しました。・福祉避難所として機能できるよう、その対応や職員連絡網・マニュアル、備蓄品を整備しています。		S	・施設の老朽化に伴い、利用者の安全確保が重要視される中、日頃から、職員による利用前、利用後点検の徹底や避難訓練を年2回実施するなど、限られた職員配置の中で適切に対応していただいている。	S
⑧県民の平等利用	部屋の申込受付※申込みの公平性を保つため、6ヶ月前の1日から受付(平成26年10月から開始)とし、毎月1日は予約専用ダイヤルで1団体・個人につき1件の予約を受け付ける法式を実施。		・ホームページを見ての県外からの利用問い合わせも多く、新規利用につながっています。優先予約受付日はルール遵守に努め、公平性を徹底しました。		S	・予約専用ダイヤルによる受付方法により、平等利用に配慮されているが、利用者の利便性を考慮すると、今後は施設HPやメール等での施設予約も検討願いたい。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	・各事業の申込み書の取り扱いに注意し、使用後の破棄の作業はシュレッターを使用しました。 ・催事に関して、報道機関へもルール遵守をお願いしました。	「報道機関の取材」に関するルールについて、再度職員間でも共有し、あらためて個人情報の取扱いを厳重に対応しています。	S	・施設利用者に配慮したルール作りと遵守に努めている。 ・個人情報書類や情報管理については、施設管理の徹底、パソコンのパスワード管理など適正に行われている。	A
⑩利用実績	・上記4. 施設利用実績の通り	・前年度より利用件数、利用人数とも増加しました。	S	・前年度対比で、全体で大幅な増加が見られたことは、これまでの地道な広報活動の成果だと評価する。 ・利用者数を事業ごとに見ると、前年度を下回っている事業もあり、今後は利用者ニーズを把握した上で、事業のあり方を検討の上、実施願いたい。	S
⑪収支実績	・上記「5. 管理運営収支実績」の通り	・支出面では業務運営に支障がでない状況で節約を実施しました。	S	・宿泊者へ積極的に、小浴室を活用していただくなど、節約に工夫が見られた。 ・収支については適切に管理、執行していただいている。	A
⑫その他の取組	①虐待防止への取組 ②地域・住民関係機関との連携 ③環境整備の取組状況	・虐待防止委員会を設置し、啓発や防止に努めました。・近隣の市民センターとの連携や地域向けのボランティア講座をとおし、住民の方々が障害福祉に関心をもち、おまつりやイベント・各教室への参加がありました。・日頃から職員はリサイクルに取組み、更に利用者にも理解と協力を図りました。	S	・利用者が過去最高を記録し、一般ボランティアや企業ボランティアの活動など、地域住民との連携が継続して図られている。	S
総合評価		数年前より一時減少傾向であった利用件数及び利用人数が新たな利用団体も加え増加しており、常日頃の利用者への対応やプログラムへの取り組み等の地道な積み重ねが奏功したと思われます。 事業展開においては、利用者や事業参加者及び関係機関等、多くのご協力をいただいているプログラムはじめ、県内全域を視野に地域や団体の要請に応えるべく出前形式で提供いたしました。施設設備の老朽化に伴い、保守点検や修繕をこまめにおこない、安心・安全の確保に努めました。	A	・利用者が過去最高を記録したことは、高く評価しており、施設の維持管理、安全確保や利用者ニーズに対する柔軟な対応についても、継続して努めていただきたい。 ・限られた職員の人員配置の中、適切に管理されている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	地域の社会資源のひとつとして、より多くの利用や活用を促すよう更なる事業や施設設備の充実が求められています。障害のある方が豊かな生活を送っていただけるよう現在のサービスを継続的に提供していくことは勿論の事、新たなプログラムの実施等、新たな利用者の掘り起しに向けた取り組みが必要であり、今後は新規利用者や若年層の参加を促すようなプログラムの開発を図る必要があると思われます。今後、施設のさらなる老朽化が予想されることから、安心・安全性の確保に向けて、点検や修繕等に留まらず、改修も視野に入れなければならないと思われます。	・出前講座への依頼が増加するなど、利用者ニーズの形態が変化してきており、限られた人員の中での取組み方や、事業の方向性、施設老朽化に伴う大規模修繕など、課題があり、今後検討が必要である。